

平成26年度
栗原市議会
議会報告会報告書

(平成26年10月28日～30日)

平成26年12月
栗原市議会

～ 目 次 ～

1	議会報告会の開催状況	1
2	議会報告会における意見・要望事項	2～14
(1)	議会報告会〔地区別、部局別〕質問項目一覧	2
(2)	栗原市議会関係	3
(3)	総務常任委員会所管関係	4～6
(4)	産業建設常任委員会所管関係	7～8
(5)	文教民生常任委員会所管関係	9～11
(6)	指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会所管関係	12～14

[報告書の付属資料]

- 議会報告会参加者アンケートの集計結果
- 議会報告会配布資料

平成26年度議会報告会開催状況

1 開催日時等

開催日時	地区	会場	担当班	参加者数(人)		
				男	女	計
10月28日(火) 午後7時から	若柳地区	若柳多目的研修センター	第1班	15	6	21
	栗駒地区	栗駒総合支所	第2班	37	1	38
	築館地区	市民活動支援センター	第3班	11	1	12
	瀬峰地区	瀬峰総合支所	第4班	11	2	13
10月29日(水) 午後7時から	金成地区	金成生涯学習センター	第1班	18	0	18
	花山地区	花山石楠花センター	第2班	6	2	8
	一迫地区	一迫ふれあいホール	第3班	9	4	13
	鶯沢地区	鶯沢振興センター	第4班	13	0	13
10月30日(木) 午後7時から	高清水地区	高清水総合支所	第3班	10	0	10
	志波姫地区	この花さくや姫プラザ	第4班	11	0	11
計				141	16	157

2 班編成

第1班	第2班	第3班	第4班
石川正運	高橋 渉	佐々木 幸一	五十嵐 勇
佐藤久義	佐藤 勇	濁沼 一孝	沼倉 猛
鹿野芳幸	阿部 貞光	菅原 勇喜	佐藤 範男
佐藤千昭	三浦 善浩	菅原 久男	瀬戸 健治郎
佐藤 悟	佐々木 嘉郎	三塚 東	小岩 孝一
相馬勝義	佐藤 文男	佐々木 脩	高橋 勝男
小野久一	高橋 義雄		

平成26年度栗原市議会議会報告会〔地区別、部局別〕質問項目一覧

(単位：件)

部局名等	地区名	築館	若柳	栗駒	高清水	一迫	瀬峰	鶯沢	金成	志波姫	花山	計
議会		0	2	1	0	1	0	1	1	2	1	9
総務部		0	1	1	2	1	4	2	1	1	1	14
	うち、防災対策関連	/	/	(1)	(2)	(1)	(1)	/	/	/	/	(5)
	うち、医学部構想関連	/	/	/	/	/	(1)	/	/	/	(1)	(2)
企画部		1	0	3	0	1	2	1	1	0	0	9
	うち、定住対策関連	(1)	/	(1)	/	/	/	(1)	/	/	/	(3)
市民生活部		5	5	6	2	5	4	4	0	1	0	32
	うち、最終処分場関連	(5)	(3)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	/	(1)	/	(24)
建設部		0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	3
産業経済部		1	0	1	1	1	2	2	3	5	3	19
	うち、農業政策関連	/	/	/	(1)	/	(2)	(2)	(1)	(3)	(1)	(10)
	うち、汚染稲わら等関連	(1)	/	(1)	/	/	/	/	(2)	(1)	/	(5)
教育部		3	0	3	0	0	1	1	0	1	1	10
	うち、学校再編（跡地利用含）関連	(2)	/	(1)	/	/	/	/	/	(1)	/	(4)
農業委員会事務局		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
医療局		0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3
消防本部		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計		10	8	17	6	9	15	12	6	10	8	101

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：栗原市議会

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	政務活動費は、市民のためになるように使って欲しい。(若柳地区)	ご意見として承る。
2	議会報告会に地元の議員も参加させてほしい。(栗駒地区)	ご意見として承る。
3	日頃、議員の顔が見えない。市民の代表として、広い視野で見識を持ち、顔の見える活動、突っ込んだ議論を望む。(一迫地区)	ご意見として重く受ける。
4	各委員会の先進事例調査は、2泊3日の日程で行われているが、その他の調査は、全て1日で終了している。現地調査などは行っているのか。1日で終了している理由は何か。(鶯沢地区)	この資料に列挙したものは、各委員会の調査活動の一部である。必要に応じて、現地調査も行っている。その外、取りまとめのための委員会も開催している。
5	こうした会合で、よく市議会議員の定数が多いとか、議員報酬が高いとかの意見が出される。そういう議論ではなく、それらに見合うだけの活動をして、市民に活動実態をよく示してほしい。(志波姫地区)	ご意見として承る。
6	政務活動費の使途状況、チェック機能はどうなっているのか。(花山地区)	使途状況はまだ報告がないのでわからない。交付を受けている会派、受けていない会派とさまざまである。先進地調査を行った会派もある。個人の通帳に入るものでは一切なく、厳しいチェックをしている。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：総務常任委員会所管 26件

1 議会関係 2件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	総務常任委員会の行政視察では何を学んだのか。(若柳地区)	地方自治法第100条第13項による議員派遣で調査を行った。長野県塩尻市では、防災対策として危険箇所には光ファイバーやセンサーを設置し、振動をキャッチすると通報されるセンサーネットワークによる減災情報提供事業を。三重県伊賀市では、厳しい財政状況や少子高齢化などの課題に対応するため「自治基本条例」を制定し、住民自治によるまちづくりを行っていた。
2	総務常任委員会では、防災・減災の先進事例調査を行っているが、参考とすべきよい事例を、地域防災組織に提供してほしい。(志波姫地区)	配布資料に基づき、長野県塩尻市の取組み概要を説明した。

2 総務部（選挙管理委員会含む）関係 15件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	若柳総合支所の建替えについては、最初の説明会で提示された庁舎後ろ側への駐車場設置は再検討すべきである。また、再度住民説明会を開くと言っていたが、早く開催すべきである。(若柳地区)	当局に伝える。
2	市に518箇所の危険箇所があるというが、要望しても優先順位があると言われる。早急に対応するよう伝えてほしい。(栗駒地区)	指定箇所が増えており対策が間に合わない。市が1割負担の県事業である。今年2箇所であるが、今後とも事業促進を働きかけていく。
3	過去の災害時には、高齢者の一人世帯や障がい者などの支援が必要な世帯情報は、個人情報保護の点から提供されなかった。事前に本人から、緊急時の自己情報の第三者への提供の承諾書をとっておくなどの対応を整備すべきである。(高清水地区)	災害時に支援が必要となる方に対する個人情報の取扱いを事前に統一しておくことは、市民の生命と財産を守る上で不可欠なことであると認識する。参考にさせていただきたい。
4	人口減少とライフスタイルの変化に伴い、消防団員が減少してきている。市民の生命と財産を守る団員の確保は喫緊の課題である。待遇を改善して、団員の確保を強く望む。(高清水地区)	市では、企業に対し、協力事業所として認定し、認定書の交付などを行い、消防団員の確保に努めている。さらなる団員の確保に努めていきたい。
5	自主防災組織に発電機が配備されているが、詳細の使用方法がわからない方が多く、いざというときに使えないことが考えられる。詳細の使用方法について、避難所の運営マニュアルとともに統一して作成すべきではないか。(高清水地区)	常に使用できる状態になっているものと認識しているが、点検を兼ね、各地域で使用訓練を行うなど積極的に活用していただきたい。また、避難所運営マニュアルは、その作成を担当職員と相談させていただきたい。
6	総務常任委員会活動報告の中にあつた「避難所運営が速やかに対応できるよう」とはどういったことか。(一迫地区)	委員会の調査では、避難所施設の1人あたりのスペースや人員が過大になっていた。よって、避難所施設の収容人員の見直しを求めた。
7	医学部栗原キャンパス構想では、県立循環器・呼吸器病センターは廃院の方向であつた。住民に説明しながら進めるべきである。瀬峰地域のことを考えれば、医学部がこなくてよかった。議会として、この件に関する特別委員会を設置しなかったのか。(瀬峰地区)	当初は東北福祉大学と仙台厚生病院の中で進められてきたものであり、市は受け身の立場であつた。報道以上のことはわからない。市に医学部がくれば、病院の診療科目が増えるなどメリットはあつたと思う。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：総務常任委員会所管 26件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
8	次の市議会議員選挙から、小選挙区制を導入してほしい。ポスター掲示板の撤去費用などの財政面や、議員の選挙活動を考えると小選挙区がよい。(瀬峰地区)	現状では導入できない。議員定数が減っている中で、こうした報告会でも他地域の議員がきて意見を聴く機会を設けるなどカバーしようとしている。意見として承る。
9	総務常任委員会でデジタル行政無線の整備状況について調査しているが、アナログをデジタルに変えるという意味か。(瀬峰地区)	チャンネル数の関係でアナログでは対応できなくなってきた。デジタルの方が、雑音は少なく、聞き取りやすいというメリットがある。
10	職員が休憩室で昼食をとれるようにしてはどうか。(瀬峰地区)	休憩時間はあるが、特に窓口などには対応しなければならない。また、スペースや体制の問題もある。ご意見として承る。
11	昨年度の議会報告会で、納税貯蓄組合補助金の廃止発言があったが、市は納税意識の啓発、税金収納への貢献などから、補助金の継続を決定した。全く、同感である。現在、集会施設の管理費にも充当しているので、継続してほしい(鶯沢地区)	市税の各税目でも、滞納件数が増加傾向にある。併せて、納税貯蓄組合が解散した地域は、同様の傾向を示している。ただ今の意見と、議会としても同様の考え方である。
12	昨年11月中旬、業者が市有地である市道の法面に鉄柱を建てた。私の行政区だけでも20本が建てられたが、この事実を、議会側は承知しているのか。道路愛護活動で、年3回法面の草刈りを実施しているが、草刈り作業に支障が生じている。また、このように鉄柱を建てる工事をする場合、事前に地域住民に説明をすべき旨を業者に連絡したが、その後何の連絡もない。(鶯沢地区)	議会側では、詳しい話は何も聞いていない。借地であれば、市が行政財産の目的外使用の占有料等を徴収するものと思う。どういう目的で「鉄柱」を建てたのか、市当局に確認する。
13	納税貯蓄組合は不要ではないのか。瀬峰宮小路原地区では、200世帯で30人の組合長がいるが、現実には行政区長が納付書を配布し、金融機関やコンビニで納めている。すでに、当該組合の目的は終わっていると思うが。(金成地区)	収納率の向上のためには必要な組織と考える。組合活動として、年1回の交流会や集いも意義があると思う。
14	国道4号バイパスが一部開通し、市道大林線へ通勤自動車などの乗り入れが多くなった。このため、当該大林線と市道御蔵線の交差点で、交通事故が多発するようになった。事故発生防止のため、信号機を設置してほしい。(志波姫地区)	ご意見として承る。
15	医学部を誘致できなかったのはなぜか。(花山地区)	東北福祉大から声がかかって準備を進めてきたが、途中で方針が変更されたため、市では東北福祉大の構想を断った。その後ぎりぎりのタイミングで県立大学構想を要請したが、結果的には認められなかった。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：総務常任委員会所管 26件

2 企画部関係 9件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	合併後の人口減少は顕著である。議会で質問した議員はいないと記憶している。議会は、人口減少の解決策を研究して提言すべきであり、それも議会の役割ではないのか。(築館地区)	意見は重く受け止める。議員はそれぞれ人口減少対策について、一般質問などで提言している。企業誘致、若者定住の施策も提言の一つである。市では、若者定住に向けた宅地分譲や家賃助成、子育て支援では中学3年生までの医療費無料化や35人学級の実現、保育料の無料化、婚活支援等、独自の支援を進めている。
2	人口減少に歯止めがかからないのはなぜか。(栗駒地区)	出生数が少ない。結婚する人が少ないためであり、その点を考えていくべきである。様々な要因が絡んでいる。企業誘致の際、工業高校卒の人材が多くいるかを問われる。教育があつて企業が求める人材育成につながると思う。市としては、若者定住のため住宅・子育て対策に力を入れている。この辺に期待をしている。
3	以前、瀬峰宮小路原地区の自治会の実態を話し、市からの指導及び考え方を求めた。自治会の役割が大きくなっている。自治会とコミュニティの関わり、自主防災組織、農地・水・環境保全組織、敬老会も地域で取りまとめ等々、専門部門がないので大変である。行政区長と自治会長は兼務させない方が良いのではないのか。(金成地区)	当局に伝える。
4	レールバイクの運行に市職員を配置していると聞くがその実態について。(栗駒地区)	今年始まった事業で軌道に乗るまでは市職員がつくと思う。来年度からはくりでんOBに任せると思う。
5	7つの成長戦略の進捗状況はどうなっているか。(栗駒地区)	現在は答えられない。
6	合併前に町長から受けた説明は明るいものであった。しかし、旧町村から継続事業として持ち込んだ事業が実施されていない。旧町村から引き継がれた事業の達成率どうなっているか。また、未実施事業の対応はどうなるのか。(一迫地区)	新市に引き継がれた事業を含め、市の総合計画に基づき進められている。ただし、市は、費用対効果を重んじ、多くの事業を進めている。中山間地の事業が置き去り傾向にあるので、議会としても努力していく。 なお、合併時に持ち込んだ事業は、市に確認後報告したい。また、地域の課題は、行政区長、議員、または議会報告会で知らせて欲しい。
7	空き家対策に関する条例を制定してほしい。(瀬峰地区)	報道によれば、住家を解体すると税金が高くなる現状があることなどから、国はこの問題をとりあげている。一般質問で論戦を交わしている議員もおおり、喫緊の課題であると捉えている。ご意見として承る。
8	防災行政無線などの難聴対策を進めていると思うが、御嶽山の噴火後いろいろ報道されている。栗原市には栗駒山があるので、そうした地域の解消に努めてほしい。(瀬峰地区)	ご意見として承る。
9	最近、若者が流出し、この地域では子どもの声が聞こえてこない。最終処分場が建設されれば、負の遺産となり、人口減少がさらに進む。山形県内のある地域では、中国女性を招待し、婚活事業を展開している。市議会も婚活事業を促進する立場に立ち、結婚の仲人役になることも考えてほしい。(鶯沢地区)	ご意見として承る。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：産業建設常任委員会所管 18件

1 産業経済部・農業委員会関係 15件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	平成26年産米の米価急落は衝撃的である。産業建設常任委員会では、本事案について激論が交わされていると思われるが、栗っこ農協に対し、販売方法の見直し、より有利な転作物の研究、6次産業化のさらなる推進などについて、議会から強力に働きかけられたい。(高清水地区)	市では、栗っこ農協と協議し、「農業経営維持資金」を創設して利子補給を行っていく。本市の稲作を守っていくため、議会も市やJAと連携し、より有効な取組みを研究していきたい。
2	一迫地区では空き家が増えている。近くに働く場所がないため遠距離通勤している人や、低賃金のため2箇所働いている人もいる。議会としても、こうした実態を重く受け止め、市民のために努力して欲しい。	市は、子育てや婚活などの支援を進めている。また、若者定住に向けて、企業誘致も行い、「豊田合成(株)」が高清水地区に工場建設を進めているほか、現在、市内2箇所で工業団地を造成している。
3	5月か6月に仙台で、国主催の「新たな農業・農村政策」に係る説明会が開催されているが、出席しているか。(瀬峰地区)	議会としては出席していない。議会の対応となれば、議員派遣の手続きが必要であり、この説明会に関しては、その手続きを行っていない。
4	議会として説明会に出席するには、手続きが必要なことは理解したが、出席しなかったことは残念である。職員から報告は受けているか。国が各地で説明会を開催していることを重要視すべきである。積極的に情報把握に努めるべきである。(瀬峰地区)	説明会に特化した報告は求めている。委員会では、国などからの最新情報でもって調査を行っている。この政策に関しては、委員会でも重要視していることから本日も報告している。なお、要望として承り、所管の委員会に話をする。
5	耕作放棄地の増加は、農地法がネックになっていると思わないか。(瀬峰地区)	耕作放棄地の増加は、農業従事者の高齢化など様々な要因が相まってのことである。議会として、農地法のことについてどうこう言えない。
6	平成26年産米の概算金は、主力品種である「ひとめぼれ」でも、1俵あたり8,400円と安く、農家は困窮の淵にある。TPP問題など課題は多いが、地域から農家がなくならないよう、市の助成など手だてが必要である。(篤沢地区)	栗っこ農協管内では、今年は63万俵が集出荷予定で、概算金だけで17億円を超える減収となる。市は栗っこ農協と協議し、無利子のつなぎ資金として、3億円を原資とする「農業経営維持資金」を創設し、希望農家に融資を実施する予定である。
7	地域の若手が、日本型直接支払制度を活用し、荒廃農地を復元すべく取り組んでいるが、柳や萱などが厚く繁茂し、手がつけられない場所もある。また、農地中間管理機構を通じて農地を貸し出したいが、条件不利の農地や放射能汚染の影響もあり、借り手が出てこない事態が懸念される。(篤沢地区)	難しい問題であると、認識している。農地中間管理機構の関係は、現在、貸し手の受付も同時に始めているので、まずは、手を挙げてほしい。
8	稲作の作況指数は104と良いが、米価が1俵8,400円では採算性がない。市や農協ではどう対応するのか。他県では、米価に上乗せしている。(金成地区)	市全体で米価が16億円の減少。米の直接支払交付金は反当7,500円となるので、あわせて昨年より20億円の減少となり、地域経済にも大きな影響が出る。市は、栗っこ農協と協議し「農業経営維持資金」を創設して利子補給を行っていく。米価への上乗せは、市では難しいと思う。農協で考えて欲しい。
9	志波姫地区では転作地に大豆を作付しているが、荒し作りで雑草が繁茂し、まだ、収穫されていないほ場が多い。TPP交渉は大詰めの段階だが、大豆ひとつ見ても、土地利用型農業は100ヘクタール単位で経営しないと、太刀打ちができないと考える。現実、コンバインの不足などから、大豆の収穫が遅れ、品質が低下しても、補助金はもらえるのか。	国の農作物の「ゲタ」対策で、収穫される作物の収量や品質により、助成金が上乗せされる仕組みになっている。大豆収穫用の汎用コンバインが不足する実態があるとすれば、関係方面に連絡する。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：産業建設常任委員会所管 18件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
10	農地中間管理機構の活動が開始されたが、当該機構の活動を待つだけでなく、市と農協などがタイアップして、地域状況を考慮しながら、早めの取組みを進めてほしい。(志波姫地区)	農地中間管理機構が行った市内の農地の受け手希望者は、資料のとおりであるが、農地の出し手は、現在、60件程度で低調である。関係機関の連携推進体制については、ご意見として承る。
11	農地中間管理機構の事業を進めるにあたり、現在、転作として大豆のブロックローテーションを実施しているが、土地の貸借関係において、相手を選べない場合は、土地利用調整に支障が生じるのではないかと不安を感じている。 なお、先程の意見の大豆の収穫時期についてだが、11月上旬に関係者の会議を開催し、収穫作業を行う。適期収穫を進めるもので、決して時期は遅くない。(志波姫地区)	農地中間管理機構は、地域の土地利用の実態を勘案し、関係者との協議の下に、受け手を決定することになる。なお、大豆の収穫期に関する助言には、感謝する。
12	これまで、24戸で転作組合を運営してきたが、今年は構成員が23戸に減少した。転出している後継者を、郷里に戻すことは可能だが、課題は栗原市における雇用の確保である。正規職員として就職できるよう、雇用環境の整備に努力してほしい。(志波姫地区)	ご意見として承る。
13	市がみやぎ農業振興公社に委託して牧草地の除染作業をしている。草を刈れる状況ではない。産業建設常任委員会でその後の現地確認をしているか。(花山地区)	稲わらの分は調査したが、牧草は、委員会として調査はしていない。
14	市のほうから案内があり、明日、小豆畑地区の除染について説明があるようだ。特別委員会の方で内容について承知していれば聞かせてほしい。(花山地区)	報告はないが、放射線量の高い地区は、地区の方々に話し合いをし、除染した物質の保管場所等を決めて、除染を進めることになっている。
15	基幹産業の農業が厳しい状況にある。農地中間管理機構など国がどんな政策を打ち出しても花山地域は置いてきぼりになる。	2年間は農地中間管理機構に預けられるが、その先は決まっていない。

2 建設部関係 3件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	平成26年9月定例会で市道上田線の請願採択に感謝する。この地域は、平成20年岩手・宮城内陸地震で孤立して避難生活を余儀なくされた。この間、崩落地の法面に網をかけただけ。東日本大震災で山の上に亀裂が入った。早期実現を望む。(栗駒地区)	ご意見として承る。
2	河川の支障木について、何とか処理できないものか。樹齢が高く、河川の水面が見えなくなっている実態もある。調査するなりして、対処してほしいが、どの部署に働きかけたらよいのか。(鶯沢地区)	洪水時の緊急遊水地として、県が施行していた長沼ダムの改修工事が完了した。県では、来年度からスタートする新たな河川整備計画を策定し、関連工事が下流側から進められる。行政区長を通じて総合支所に要望を伝え、市建設部から、県に働きかけることになる。
3	花山地区で感じることは、秋山大橋早くできないのかと思う。いつできるのか。(花山地区)	道路用地は、国道4号からカントリーエレベーターまで買収が終わっているが、完了していない所があると聞いている。工事は早速始まるようだ。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：文教民生常任委員会所管 21件

1 市民生活部関係 8件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	地域包括支援センターや介護認定業務を行う職員は、臨時職員が多い。待遇改善が必要ではないのか。また、要介護、要支援の認定が一定ではない。(若柳地区)	待遇改善については、文教民生常任委員会で提言していく。介護認定は、認定審査会の中で申請に基づき、審査が行われていると聞く。
2	若者にとって子育てしやすい環境ではない。まず、産科、小児科がない。特徴のある取組みが必要ではないのか。また、市の高齢化率が40%となったら、存続できるのか。(若柳地区)	市では、保育所の2人目から無料化や医療費の中学校までの無料化を実施している。また、働くところの確保のため、工業団地の造成など行っている。
3	昨年、1,300名の署名を添えて国保税引下げの要請を市と市議会に行った。栗原市は、資産割35.64%、所得割9.7%など他自治体に比べて高い。介護保険料は、県内3番目だ。一方、市内の所得の現状は激減している。こうした現状を、文教民生常任委員会などで検討して要望に応じてほしい。(栗駒地区)	ご意見として承る。
4	市内の各種介護施設数は何箇所あるか。また、一部の施設利用者からは、期待したサービスを受けられないという話も聞く。こうした施設利用者の不満などを受ける第3者機関による調査機関を設置できないか。(高清水地区)	平成26年8月1日現在で、介護老人福祉施設等の介護サービス提供事業所は35施設あり、その定員は1,216人である。また、デイサービスなどの通所介護等の居宅系サービス事業所は158事業所ある。第3者機関による調査機関については、議会として、法律上調査することができるかを確認するが、ご意見として承る。
5	高齢者、介護施設等の入所施設が不足し、待機者が多い実態を認識しているか。(一迫地区)	その実態は認識している。市長のマニフェストに施設入所待機者を半分にするとある。議会も「市民が創るくらしたい栗原」となるよう提言していく。
6	議員は、市民の意見を聴き、生命と財産を守る義務がある。今、水質の保全を図らなければ、取り返しのつかない事態が生じる。市には、環境を守る水源保全条例はあるのか。(一迫地区)	条例はないが、水源保全について一般質問で質している。
7	市長は、「子育てしやすい栗原」と言っているが、いまだ保育所の入所待機者は、多い実態にある。「子ども・子育て支援法」が平成27年4月から施行され、女性の働ける環境づくりが進められる。今後、市としても法に基づく支援策が必要となってくる。子どもたちにやさしい栗原となるよう議会も努力して欲しい。(一迫地区)	「子ども・子育て支援法」の制定に基づく、条例改正が9月定例会で可決された。事業が、確実に平成27年4月から実施できるよう、議会も努力していく。
8	高齢化が進み、施設への入居者も増えてきている。いろいろな面でボランティアの力が必要になってくる。ボランティア精神の育成を第一にお願いしたい。(瀬峰地区)	ご意見として承る。

2 教育部関係 10件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	五日市憲法に関わった「千葉卓三郎」氏について聞かれる。千葉氏は、史跡伊治城にも関わりを持っている。文教民生常任委員会で調査して欲しい。(築館地区)	文教民生常任委員会で検討したい。
2	人口減少対策として、企業誘致や子育て支援も重要だが、学校再編によって人口減少の要因となっているのではないのか。今後、築館地区も再編が進められ、さらに拍車がかかると思う。また、スクールバスの送迎より、「道くさ」が子どもの成長につながるのではないのか。議会として、子どもにとって何が1番かを考えて欲しい。(築館地区)	ご意見として承る。
3	築館地区の学校再編はまだ間に合うと思う。小学校は地域の宝であるので、議会で検討して欲しい。黒瀬地区の小学生は3校に分かれている。宮野地区に小学校を残して欲しい。(築館地区)	ご意見として承る。
4	市の文化財は、552箇所あると報告があった。素晴らしい文化の市だと思う。いかに磨いて、いかに紹介するかで価値が決まる。こうした文化財を市民がインターネットで見ることが可能か。市民に分かるように公開すべきである。(栗駒地区)	有名な所は分かっているが、インターネットで調べたことはない。歴史を大事にして、それに基づいた教育に力を入れるところは最後に伸びると思う。常任委員会で話題提起して、少しでもいい方向にいけたらと思う。
5	スクールバスの利用は、距離で決まっているようだが、空きがある場合は柔軟に対応してほしい。(栗駒地区)	これまでも柔軟な対応を求めてきた。今後も求めていく。
6	小中学校で使用している教科書は、審査会の意見をもとに教育委員会で決定しているが形式化している。一番良い教科書が採択されるよう、議会としても、執行部に働きかけてほしい。(瀬峰地区)	市政懇談会でも意見を述べているようだが、議会としては意見として承る。
7	学校のいじめは、一段と低年齢化しているといわれるが、市内ではどのくらい発生しているのか。また、原因は何か。(鶯沢地区)	詳細は、把握していない。
8	学校再編後の施設の利活用は、現在どのように進められているのか。(鶯沢地区)	旧花山中学校は介護施設に、旧沢辺小学校は市教育研究センターに、旧津久毛小学校は学校給食センターに、それぞれの利活用が決定している。栗駒地区の旧宝来小学校と金成地区の旧萩野第二小学校は、売却することで、10月まで公募している。その他は、まだ方向性が決定していない。
9	学校再編で廃校になった旧沢辺小学校校舎が、新たに市教育研究センターとして再活用された。優良事例であり、よかったと感じている。全体計画の概要はどうなっているのか。(志波姫地区)	栗駒地区の旧宝来小学校と金成地区の旧萩野第二小学校校舎は、民間の事業者売却するため、公募中である。市の学校施設・跡地の再活用方針は、第一に市に活用の方針がない場合は、3年間の期間を定め、地区に開放している。この3年間に、地区の利活用の方向性を検討してもらい、利活用の希望がない場合は、民間に売却することを原則としている。
10	花山小学校は小規模特認校となっても厳しい。花山地区民には最後に残されたコミュニティである。子どもが生まれれば一番いいが、他地域からも来てほしい。花山少年自然の家もある。学校が存続できる方法はないか考えている。なんとかよろしくお願ひしたい。(花山地区)	要望としてうけとめ、常任委員会を通して市当局につないでいく。

3 医療局関係 3件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	医師の招へいができないのか。産婦人科医を招へいしてほしい。里帰り出産もできない。(栗駒地区)	合併時よりも栗原中央病院の医師は増えている。病院事業管理者を中心に頑張っている。
2	県立循環器・呼吸器病センターが廃院になると報道された時は驚いた。県議会の6月の一般質問での県知事の答弁でも触れられず、病院長もわからなかったようである。現在は40床くらいしか利用されていない。病院内の食堂も9月末で撤退した。県の考えについて、文教民生常任委員会で調査してほしい。(瀬峰地区)	ご意見として承る。
3	栗原中央病院は、中核病院の役割を果たしていない。夜間救急や難病をすぐに大崎市民病院に転送される。栗駒病院から大崎市民病院に転送される患者が多いと聞くが現状はどうか。(金成地区)	栗原中央病院の診療体制の不十分さはある。透析や脳神経のような高度医療体制が取れない。また、医師の確保と病院の役割分担、個人病院との関わりも大切にしなければならない。地域医療について、当局と議論していく。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類：指定廃棄物最終処分等に関する調査特別委員会 30件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
1	特別委員会は、最終処分場建設詳細調査候補地のうち、栗駒深山嶽のみを現地調査している。他候補地ならいいという考えか。他も現地調査すべきではないのか。(築館地区)	議会は、平成24年12月定例会、平成26年2月定例会で最終処分場建設反対の意見書を提出している。特別委員会では、他候補地の現地調査の議論はされていない。
2	平成26年2月定例会に最終処分場建設反対の意見書を提出後、日々情勢が変化している。詳細調査が始まることを踏まえ、特別委員会は、何らかの建設反対の意思表示をすべきではないのか。(築館地区)	情勢が変化していることは認識している。特別委員会は、委員の総意により活動するので機敏ではない。ご意見は特別委員会で協議したい。ただし、議会の意思は、前井上環境副大臣に直接会って、最終処分場建設反対の意思は伝えている。
3	平成26年9月定例会に提案された処分場建設拒否条例に関心があり、是非、必要だと思った。本会議と特別委員会を傍聴したが、議論を聴いてもよく判らなかつた。市長と議会は権限が異なると思う。なぜ当該条例が否決されたのか。(築館地区)	この条例の議論はわかりにくかつたと思う。「放射性物質汚染対処特措法」があり、市町村の条例には限界がある。加美町議会が作った条例も同様となっている。
4	加美町は、議会が努力したから条例が制定されたと思う。市議会は努力が足りないのではないのか。法律に問題があれば、議会は異議を唱えるべきではないのか。(築館地区)	ご意見として重く受け止めたい。議会は、最終処分場建設には反対である。 ご意見を特別委員会で議論し、調査活動をした
5	議会が最終処分場建設に反対していることは理解したが、市内5か所に汚染稲わらが保管されている。議会として、その打開策を国や県に提言すべきであり、同じ問題を抱える自治体に問いかけるべきではないのか。(築館地区)	考えは議会も同様である。汚染稲わらの保管は「放射性物質汚染対処特措法」で自治体の協力が定められている。ご意見は、特別委員会で協議したい。
6	最終処分場建設は、原発導入時に定めるべきであつて無責任な話である。本気になって適切な保管場所を、国は決定すべきでないのか。私は、県内3箇所とも反対する。最終処分場建設反対は、意見書では弱い。条例を議論して欲しい。(築館地区)	ご意見については、特別委員会で議論していきたい。
7	市議会が提出した最終処分場建設反対の意見書は良かった。環境省は、県内の詳細調査候補地の選定をどう考えたのか。また、汚染稲わらの一時保管期限を守らなかつたのはなぜか。(若柳地区)	議会は反対であり、市長も反対である。3市町が足並みがそろえば詳細調査は受け入れるとしている。汚染稲わらの保管期限延長は良くない。国、県の対応が悪い。
8	最終処分場建設詳細調査候補地の選定は、国はそれなりの根拠を持っていたのではないのか。強い力で押し返すことができなかつたのか。国の言うことを聞いていたら大変なことになる。(若柳地区)	市町村長会議を4、5回開いて決定された。これ以上どのような行動ができるのか議論している。市長も体を張って、建設を反対すると言っている。
9	最終処分場の建設問題は心配である。文字地区の反対運動に支援すべきである。(若柳地区)	ご意見として承る。
10	市民は、これまでの特別委員会の活動だけで良としていない。今後どう進めていくのか。議員の行動が分かるように住民に知らせてほしい。 県議会では、自民党会派で考える会を組織して指定廃棄物を福島に持っていく運動しているが、議会としてどのように考えるか。(栗駒地区)	処分場建設拒否条例は否決になった。 県議会で考える会を組織したことは世論からして当然だと思う。今後どう進めるかは、議会内で協議して決めることである。 最終処分場はいらない思いは同じである。議会としてどういう運動が望ましいか四苦八苦している。
11	市民、行政、議会が三者一体になって運動しなければ成功しないと思う。どのように進める考えか。(栗駒地区)	3地区の連絡会のような組織を作り、県全体の運動にし、詳細調査後1か所に決めるということ、白紙撤回をさせるべきである。 大切なことは、市民・行政・議会が三者一体になること以外に手はない。しかし、稲わらをいかにして早く処分するかというジレンマがある。
12	三者一体となるために連絡協議会を作ってほしい。(栗駒地区)	特別委員会へ持ち帰る。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類： 指定廃棄物最終処分等に関する調査特別委員会 30件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
13	栗駒地区にある汚染稲わらの一時保管庫のトン屋根がボロボロである。議員も見てほしい。	当局に伝える。
14	最終処分場が建設されたらますます人口が減る。議員にも認識を高められたい。 自然災害のおそれがあるところは除外とある。栗駒山は活火山であり、適地でないことは明らかである。また、国定公園の栗駒山周辺に最終処分場を建設していいのか研究して反対してもらいたい。(栗駒地区)	環境省の資料に、自然災害のおそれがあるところは除外とあるが、一般質問でも質したが、それでも除外されなかったという事実がある。栗駒山も活火山であり、働きかけできる部分はしっかり進めていきたい。賛成の議員はいない。
15	連絡協議会を作ってほしいとの意見に対し、検討するとのことなのでありがたい。市民、行政、議会が一体となって運動していくことが大切である。最終処分場が必ず来ると思って、運動していきましょう。文字地区は、住めなくなるのではないかと、反対の旗がボロボロになっても集会を開いて頑張っている。ぜひ議員も集会に来て、その声を聞いてほしい。 栗原市全体の問題であり、連絡協議会を作って、知事に見直せという趣旨の陳情を提出するくらいの力を出してほしい。(栗駒地区)	我々も栗駒山から流れてくる水で、生計を立てている。文字地区だけでなく、栗原市全体の問題である。
16	最終処分場問題は、加美町の状況は毎日のように報道されるが、本市の直近の状況と今後の見通しについてはどうなっているか。(高清水地区)	市長は、一貫して深山嶽が不適地であることを環境省に証明していくとの姿勢である。なお、詳細調査は3候補地が同時で行うこととしているため、加美町の反対行動もあって進んでいない。
17	議会は、説明、公開が不足している。汚染稲わらだけでなく、汚染土壌、汚泥等も最終処分される。議会は、放射性物質汚染対処特措法の改正を議論して欲しい。処分場建設拒否条例は否決となった。最終処分場建設反対に議会はしっかり取り組んで欲しい。 子どものためには、放射能だけではなく、農薬やフッ素等の危険性を啓発して欲しい。また、子どもたちにも学習させて欲しい。(一迫地区)	議会も最終処分場建設に反対している。処分場建設拒否条例の否決は、本会議、特別委員会の議論の結果である。指摘事項については、特別委員会で検討したい。 子どもたちの未来、危険性については、今後検討して取り組んでいきたい。
18	国が加美町に詳細調査に入らないのは、町長が先頭に立って反対しているからである。議会は今後「処分場建設拒否条例」の継続協議、提訴に取り組んで欲しい。(一迫地区)	議会として、取り組めるものは進めたい。
19	花山金沢地区にも亀裂箇所があり、平成20年岩手・宮城内陸地震の凄まじさを痛感した。最終処分場が建設されれば、農産物への風評被害や、さらなる人口減少が懸念されるので強力に反対してほしい。(瀬峰地区)	特別委員会でも現地を踏査した。不適地であることは承知しており、建設には絶対反対である。候補地のボーリング調査については、環境省は3箇所示したが、市では1箇所追加して欲しいと要望した。
20	汚染稲わらの一時保管庫の放射線量の測定が継続的に行われていると思うが、その値はいかほどか。(瀬峰地区)	本年4月8日の資料で、高いところでは栗駒地区で1.167マイクロシーベルト、低いところでは築館地区で0.239マイクロシーベルトである。
21	1年間で20ミリシーベルト以内という国際的な基準もある。放射能に過敏になりすぎているのではないか。最終処分場建設反対ではなく、その役割を栗原が担うべきとの意見はでなかったのか。(瀬峰地区)	さきほど回答した数値は1時間あたりである。最終処分場が建設されると風評被害などによって、市の経済等への影響が懸念される。
22	最終処分場建設の県内3候補地に、深山嶽が含まれ、詳細調査が行われようとしているが、現在の進捗状況はどうなっているか。(鶯沢地区)	市町村長会議の協議結果を受け、3候補地が選定されたことは、重く受け止めている。市の基本方針は、深山嶽が不適地であることを、科学的に証明していくことであると、市長は一貫して説明してきている。環境省は、深山嶽の3地点をボーリング調査する計画であったが、市が1地点を追加することを要請し、合意の結果、4地点で実施される。

平成26年度栗原市議会議会報告会における意見・要望事項等

分類： 指定廃棄物最終処分等に関する調査特別委員会 30件

No.	意見・要望事項等要旨	回答要旨
23	最終処分場候補地の詳細調査に関する情報は、我々が知りうることは、報道内容が全てである。詳細調査の項目は、ボーリング調査以外に何が予定されているのか。この問題に関する市長の考えは解らなくもないが、最終処分場の建設が決定してからの反対では、どうかと思う。また、市議会としては、詳細調査が終了するまで、静観する考えなのか。(鶯沢地区)	詳細調査は、「ボーリング調査」のほかに、専門家から周辺地形や地質を聞き取る「文献調査」、候補地及び周辺の「地表地質調査」、人工的な地震波で地下構造を把握する「弾性波探査」、透水性を把握する「地下水位観測」がある。 市内への最終処分場建設には、市、議会ともに反対であり、両者が一丸となり、進んでいくことが大事である。市と情報交換も行っており、その中で、行動に転じる可能性はあるものの、現時点では検討していない。
24	処分場建設拒否条例を制定しないとしても、市議会として、反対行動を、何時、起こすのか。また、否決された条例を見直し、再提案する考えはないか。静観しているだけでは、市民に、市議会の思いは伝わってこない。(鶯沢地区)	いろいろな取組みが考えられると思うが、市議会では、特別委員会を設置し、調査活動を継続している。現時点では、議会としての方向性を、まだ決定していない。議員個人としての意見は述べない前提なので、これ以上の回答はできない。
25	この議会報告会での最終処分場関係の報告は、7月29日までの内容であり、その後3か月が経過している。この間に、9月定例会では最終処分場建設拒否条例の否決、その後特別委員会での条例審議否決があり、現在に至っている。こうした状況も報告しないと、前の発言者と議会側の論議がかみ合わない。私は、処分場建設拒否条例には賛成の立場である。(鶯沢地区)	処分場建設拒否条例は、結果としては否決された。この議会報告会では、議員個々の意見は述べないことにしている。
26	8,000ペクレル以下の汚染牧草のロールは、農家まかせとなっている。管理には限界がある。再ラッピングしても、熊やカラス、たぬきなどに破られ、腐ってしまう。市長は、国及び東京電力の責任と言って、対策が進まない。この状況が続けば、実力行使をしたい。福島畜産農家に搬送することも考えている。(金成地区)	対策が進まないのは事実であり、大きな問題と認識している。国、県及び市に対し、対策を要求していく。また、産業建設常任委員会及び特別委員会で現状を調査していきたい。
27	市内に保管されている汚染牧草・稲わらが多い。その人たちの気持ちは察する。最終処分場建設が栗原市となった場合、反対だけでいいのか。(金成地区)	指定廃棄物について、県内市町村長が議論し、県内1箇所を認め、3候補地に詳細調査を行おうとしているが、現状のとおりまだ決定していない。
28	特別委員会の調査目的は、汚染稲わらだが、原木シイタケも入れて欲しい。(金成地区)	ご意見として承る。
29	日本国は法治国家であり、すべて法律に基づいて行うことが原則だ。加美町の行動は理解できない。指定廃棄物の最後の処理までセットで考えないと、解決にならない。断固反対することは、解決にはならないと考える。(志波姫地区)	これまで市町村長会議での結論に基づき、手順を踏んで進めていると、市長は説明してきている。候補地の現地調査は、3候補地が同時に行うことが絶対の原則である。環境省が候補地選定に用いたデータは古いもので、今回の現地調査の結果に基づき、深山嶽は不適地であることを科学的に証明すると市長は説明しており、市議会も同様に理解している。
30	汚染稲わらなどを被覆しているビニールラップが腐食してきたので、早速ラッピングの再作業を行うべきだが、誰も行っていない。東京電力が行おうが、国が行おうが、作業料金も税金で負担するので無駄遣いである。(志波姫地区)	現在、市で農家保管の牧草などの再ラッピング作業を進めている。この作業にかかった経費は、市が東京電力に請求する制度になっている。税金の無駄遣いに関することは、ご意見として承る。

※本報告書において下表のとおり表記しております。

正式名称	本報告書における略称
平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法	放射性物質汚染対処特措法
放射性物質に汚染された汚染稲わら	汚染稲わら
指定廃棄物の最終処分場等に係る市町村長会議	市町村長会議
栗原市議会指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会	特別委員会
栗原市指定廃棄物の処分場建設の拒否に関する条例	処分場建設拒否条例